

A 会場

気候システム I

座長： 村治 能孝（株式会社エナジシェアリング）

A101	村治 能孝 (EScoT)	20 世紀前半の紙及び画像気象資料の数値化
A102	釜堀 弘隆 (気象研)	関東・東海地方の降水量観測データレスキュー
A103	松本 淳 (首都大)	ACRE-Japan・データレスキューによるアジアモンスーンの長期変動の解明
A104	山本 晴彦 (山口大)	帝国日本における気象観測ネットワークの構築ー朝鮮総督府 2ー
A105	加藤 内藏進 (岡大・教育・理科)	梅雨～秋雨における日々の降水の季節的違いと年々の変動 (東京と長崎を例とする 20 世紀を通じた解析より)
A106	久保田 尚之 (北大院理)	フィリピンの降水量データレスキューにより発展した夏季アジアモンスーン変動研究

大会第1日 [5月15日(水)] 10:00～11:30 口頭発表

B 会場

中高緯度大気

座長：立花 義裕 (三重大学)

B101	立花 義裕 (三重大学)	南極振動と北極振動とのシンクロ
B102	平沢 尚彦 (極地研)	南極内陸における高時間分解可能な長期観測
B103	中山 盛雄 (RCAST)	南半球ストームトラックの卓越変動～水惑星実験に基づく中緯度海洋前線帯の影響の評価～
B104	水越 将敏 (東大理)	南半球ストームトラックの卓越変動 ～アンサンブル AGCM 実験結果の解析～

大会第1日 [5月15日(水)] 10:00~11:30 口頭発表

C 会場

観測手法 I

座長： 内山 明博（国立環境研究所）

C101	工藤 玲（気象研）	スカイラジオメータによる雲の微物理・光学特性のリモートセンシング
C102	内山 明博（環境研）	スカイラジオメーター（POM02）の特性（Part 2）（2）
C103	清水 厚（環境研）	ライダー観測で見られた関東ローカルダストの特徴
C104	大河原 望（MRI）	南極昭和基地における地表面放射の長期変化傾向
C105	山本 哲（気象研）	地上気温観測用通風筒の日射特性評価手法の検討
C106	成田 知巳（湘南工科大学）	アジアにおける落雷位置標定ネットワークの構築

大会第1日 [5月15日(水)] 10:00~11:30 口頭発表

D 会場

専門分科会「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

座長：坪木 和久（名古屋大学宇宙地球環境研究所）

D101	室井 ちあし（気象庁数値予報）	2030年に向けた数値予報技術開発重点計画と官学連携への取り組み
D102	高野 雄紀（東大大気海洋研）	気象庁 GPV を用いた雲解説用予想衛星画像の作成
D103	金子 凌（東京理科大水理研）	ディープラーニングを用いた降水予測モデルの検討
D104	藤田 匡（数値予報課）	メソアンサンブル予報システム(MEPS)の運用開始に向けて

講演は、D101は30分、その他は15分

A 会場

降水システム I

座長： 鈴木 賢士（山口大学大学院創成科学研究科）

A151	平沢 尚彦（極地研）	SPICE-陸別サイトにおける降雪観測の解析結果
A152	荒木 健太郎（気象研）	2019年1月26日に関東平野で発生した対流雲の発生環境場と雲・降水特性
A153	佐藤 晋介（NICT）	2018年7月に神戸 PAWR で観測された層状性エコーに埋め込まれた対流性エコー
A154	吉崎 正憲（立正大学）	夏季関東地方における「E-S型」による積乱雲とその自己増殖
A155	鈴木 賢士（山口大院）	2017年九州北部豪雨と2014年広島豪雨でみられた線状降水帯の雷活動の比較
A156	西井 章（高知大院理）	平成30年7月豪雨の高知におけるレーダー観測

座長： 辻 宏樹（東京大学大気海洋研究所）

A157	田中 健路（広工大環境）	平成30年7月豪雨における広島県西部の降水系の発達機構
A158	末木 健太（理研計算科学）	平成30年7月豪雨における広島と兵庫の降水特性の比較
A159	谷田貝 亜紀代（弘前大理工）	平成30年7月豪雨の Atmospheric River と豪雨分布の特徴
A160	辻 宏樹（東大大気海洋研）	上層トラフの効果の違いに着目した2018年7月豪雨と2017年九州北部豪雨の比較
A161	横山 千恵（東大大気海洋研）	2018年7月豪雨の降水特性と後方の上層トラフの効果について
A162	茂木 耕作（JAMSTEC）	2018年西日本豪雨を引き起こした梅雨前線停滞に対する台風7号（プラピルーン）の影響
A163	吉野 純（岐阜大工）	平成30年7月豪雨に対する台風7号と台風8号の影響

B 会場

物理循環システム

座長： 田中 泰宙（気象庁気象研究所）

B151	渡邊 明（元 福大理工）	降水中のヨウ素 129 の変動について
B152	鶴田 治雄（RESTEC）	福島第一原子力発電所事故直後の放射性ヨウ素 (131I) の動態 (その 1) : 既存の観測値の総合解析
B153	板橋 秀一（電中研）	北半球スケールの対流圏オゾンに対する東アジア由来の排出量の影響評価
B154	伊藤 彰記（JAMSTEC）	燃焼起源鉄：エアロゾル中の高い鉄溶解率のミッシングリンク
B155	田中 泰宙（気象研）	MRI-ESM2.0 による自然起源エアロゾルのトレンド解析

中層大気

座長： 高麗 正史（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻）

B156	奥井 晴香（東大院理）	高解像度ラジオゾンデデータを用いた日本の夏における重力波発生源に関する研究
B157	高麗 正史（東大院理）	南極 UTLS 領域における乱流パラメータの極渦・総観規模擾乱への依存性
B158	松山 裕矢（九大院理）	成層圏におけるプラネタリー波東下方伝播の統計的解析
B159	安井 良輔（東大院理）	北極成層圏突然昇温に伴う南半球中間圏及び下部熱圏の高温偏差
B160	直江 寛明（気象研）	Level 2 衛星オゾン全量の有効温度依存性

C 会場

専門分科会「ひまわり8・9号がもたらす新しい気象学と、後継衛星への期待」

座長： 中島 孝（東海大学）

- | | | |
|------|-------------|--|
| C151 | 神野 拓哉（東大院理） | ひまわり8号観測に基づく熱帯の雲辺縁のフラクタル的性質についての解析 |
| C152 | 山内 晃（東大大海研） | CloudSat とひまわり8号を用いた雲物理特性の時間変化について |
| C153 | 関口 美保（海洋大） | ひまわり8号による衛星解析データを用いたエアロゾルによる雲への影響の領域特性 |
| C154 | 甲斐 憲次（茨大教育） | ひまわり8号 Dust RGB 画像を用いたダスト現象の解析 |
| C155 | 大竹 秀明（産総研） | ひまわり8号を活用した太陽光発電出力の推定 |

休憩（5分）

座長： 岡本 幸三（気象研）

- | | | |
|------|-----------------|--|
| C156 | 塚田 大河（北大院環境科学） | ひまわり8号を用いた台風内部コア領域の風速推定 |
| C157 | 岡部 いづみ（JMA/NPD） | 気象庁メソ解析システムでのひまわり8号晴天放射輝度温度データの利用高度化について |
| C158 | 大塚 道子（気象研） | ひまわり8号最適雲解析プロダクトの同化実験（その3） |
| C159 | 澤田 洋平（気象研） | どれだけ高頻度に観測するべきか？：ひまわり8号全天候輝度温度同化による局地的大雨予測 |

休憩（5分）

座長： 別所 康太郎（気象庁）

- | | | |
|------|----------------|--|
| C160 | 別所 康太郎（気象庁） | ひまわり後継衛星計画の概要 |
| C161 | 高野 雄紀（東大大気海洋研） | 「ひまわり」と「しきさい」に色彩を取り戻す ～分光反射率に基づくトゥルーカラー再現画像～ |
| C162 | 岡本 幸三（気象研） | ひまわり後継衛星に向けたハイパースペクトル赤外サウンダのインパクト調査 |
| C163 | 大和田 浩美（気象庁） | 静止衛星搭載ハイパースペクトル赤外サウンダの観測システムシミュレーション実験 |

総合討論

各講演は13分

D 会場

専門分科会「東アジアで近年発生する極端現象に対する地球温暖化の寄与とその将来予測」

座長： 釜江 陽一（筑波大学）

D151	佐藤 正樹（東大 AORI）	東アジアの極端現象の温暖化変化研究へのアプローチ
D152	今田 由紀子（気象研）	2018年7月の猛暑と地球温暖化
D153	森 正人（東大先端研）	2017/18年の東アジアの寒冬に対する温暖化寄与の定量化
D154	加藤 雅也（名大宇地研）	d4PDFを用いたインドシナ半島の夏季降水量の将来変化の特徴
D155	山田 洋平（JAMSTEC）	3.5km・7km格子のNICAMを用いた地球温暖化による台風の変化
D156	初塚 大輔（北大院地球環境）	d4PDFを用いた台風に伴う降水量極値の将来変化とその要因
D157	Nayak Sridhara（DPRI）	Pseudo global warming effect on typhoon-induced precipitation over western Japan

座長： 佐藤 友徳（北海道大学）

D158	楠 昌司（気象研）	大量アンサンブル実験による梅雨期の将来変化
D159	川瀬 宏明（気象研）	近年の気温上昇が平成30年7月豪雨に与えた影響
D160	増田 善信（元・気象研究所）	2018年7月豪雨と地球温暖化との関連
D161	村田 昭彦（気象研）	日本の極端降水量の将来変化に対する力学及び熱力学過程の影響（第二報）
D162	Nayak Sridhara（DPRI）	Regionality in extreme precipitations linked to temperature over Japan in present and future climate
D163	高根 雄也（産総研）	空調の使用が助長する都市の「熱汚染」

各講演は14分

A 会場

降水システムⅡ

座長： 岩井 宏徳（情報通信研究機構）

A201	楠 研一（気象研）	AI を用いた竜巻等突風の自動予測・情報提供システムの開発 ー概要ー
A202	石津 尚喜（アルファ電子/ 気象研）	CNN による竜巻の自動検出技術の開発と突風事例への適用
A203	足立 透（気象研）	PAWR および CNN による突風被害をもたらした渦の立体解 析
A204	新井 健一郎（気象研）	2017 年 12 月 1 日イタリア・サンレモ竜巻の初期解析と渦の 自動探知
A205	猪上 華子（気象研）	多点型地上観測とレーダー観測による下層渦の解析
A206	藤原 忠誠（JR 東日本）	ドップラーレーダーで捉えた男鹿市船越で発生した突風事例
A207	嶋村 重治（日本無線）	フェーズドアレイ気象レーダで観測された 2018 年 8 月 27 日 東京上空で形成されたメソサイクロン
A208	岩井 宏徳（NICT）	台風 1824 号に伴い沖縄本島で発生したメソサイクロンと竜巻

B 会場

気候システムⅡ

座長： 星 一平（新潟大学大学院・自然科学研究科）

B201	小林 ちあき（気象研）	結合モデルで予測された半年以上継続する 2018 年北半球中緯度高温偏差
B202	黒田 友二（気大）	太陽活動の北大西洋振動の影響(長期変化)
B203	原田 やよい（気象研）	西日本の大雨時における大気大循環場の特徴
B204	星 一平（新潟大院）	北極－中緯度気候リンクにおける QBO 位相依存性
B205	塩崎 公大（京大院理）	WP/PNA インデックスと熱帯海面水温偏差との関係
B206	片岡 崇人（JAMSTEC）	風－混合層－海面水温フィードバック
B207	小坂 優（東大先端研）	相当温位に基づく日々の梅雨前線の特定とその季節的北上の経年変動の研究
B208	森 正人（東大先端研）	近年のユーラシアの寒冷化に果たす北極海氷減少の影響

C 会場

気象予報 I

座長：宇野 史睦（産業技術総合研究所）

C201	郭 威鎮 (MRI)	Using Parcel Model to Simulate the Particle Distribution of Hygroscopic Flares in CCNC
C202	竹内 悠人 (豊技大)	地上からの日射計測による雲影挙動の把握
C203	大西 領 (JAMSTEC)	深層学習による超解像シミュレーション ～建物解像・街区微気象のリアルタイム予測の実現～
C204	渡邊 武志 (CRIEPI)	コンピュータを用いた気象予測モデルの統計的精度評価手法
C205	宇野 史睦 (産総研)	冬季における循環場毎の MSM 日射量予測大外しの事前検出
C206	小林 宏規 (豊橋技科大)	太陽光発電電力予測の精度向上に向けた短期出力予測
C207	宮島 亜希子 (防災科研)	雨量情報に付加したネガティブ・ポジティブ情報が受け手の避難行動に与える影響
C208	井上 剛 (三菱総研)	曇み込み LSTM を用いたレーダー降水量分布の短時間予測に関する精度検証

D 会場

大気境界層

座長： 竹見 哲也（京都大学防災研究所）

D201	稲垣 厚至（東工大）	格子ボルツマン法による大気境界層の計算
D202	竹見 哲也（京大防災研）	2018年台風21号通過時に大阪市街地で生じた暴風の定量的解析
D203	守永 武史（気象研）	境界層乱流における安定成層時の風速変動と温度変動
D204	重田 祥範（鳥取環境大学）	九州地方で発生する盆地霧の季節変動と経年変化の特徴—大分県日田盆地をモデルとした発生・消滅過程—
D205	近藤 裕昭（産総研・JWA）	産総研高山サイト(TKY)における長期の微気象観測(1)気温・放射・LAIの年平均値の年々変動
D206	阿保 真（首都大）	ライダーによる大気境界層内CO ₂ ,エアロゾル,気温,水蒸気の鉛直分布同時観測
D207	中村 祐輔（立正大・院）	ドップラーライダーの移動観測による大気境界層高度および3次元風分布の把握
D208	鷹野 敏明（千葉大院工）	雲レーダとウインドプロファイラ同時観測による雲と風の相互作用解析

A 会場

降水システムⅢ

座長： 櫻井 南海子（防災科学技術研究所）

A301	岩下 久人（明星電気株式会社）	2016年7月14日 JEF1 ダウンバーストにおける風向・風速の地上観測結果
A302	今井 隆翔（名大宇地研）	海上竜巻を発生させた対流雲内部のマイソサイクロンの3次元構造の詳細な時間変化
A303	栃本 英伍（東大大気海洋研）	Quasi-linear convective system に伴って発生した竜巻の事例解析—1992年12月8日に茨城県千代田町で発生した竜巻—
A304	益子 渉（気象研）	竜巻の数値実験における水平解像度依存性
A305	川野 哲也（九大院理）	北陸冬季雷の数値シミュレーション
A306	林 修吾（気象研）	2018年5月10日に発生した背の低い雷雲の偏波レーダによる観測
A307	櫻井 南海子（防災科研）	2017年8月30日に東京都内で発生した雷雲の3次元的特徴

大会第3日 [5月17日(金)]

9:30~11:30

口頭発表

B 会場

気候システムⅢ

座長： 神山 翼（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻）

B301	藤原 ケイ（なし）	エルニーニョ発生起点と地球-彗星の内合
B302	岩切 友希（AORI）	完新世中期における ENSO の弱化メカニズム
B303	神山 翼（東大院理）	黒潮とメキシコ湾流の海面水温同期現象
B304	山内 恭（極地研）	南極での雲放射強制を伴う湿潤暖気流入の加熱への寄与
B305	堀田 陽香（AORI）	雲水量の水平不均質性がもたらす気候影響
B306	廣田 渚郎（環境研）	CMIP5 モデルにおける過剰な深い対流と気候感度の過小評価
B307	川合 秀明（気象研）	積雲対流スキームの役割の実情
B308	小畑 淳（気象研）	旱魃、飢饉を地球システムモデルで探る

C 会場

気象予報Ⅱ

座長：南出 将志 (Jet Propulsion Laboratory, Caltech)

C301	岡崎 淳史 (理研計算科学)	次世代静止衛星搭載降水レーダ反射強度の観測システムシミュレーション実験
C302	清水 宏幸 (気象庁)	気象庁メソ解析におけるマイクロ波イメージャデータ同化の豪雨予測への影響調査
C303	南出 将志 (JPL)	全天赤外輝度温度のデータ同化のための Adaptive Background Error Inflation (ABEI)手法
C304	横田 祥 (気象研)	非線形予報モデルを繰り返し計算する 4D-EnVar は非線形現象のデータ同化に有効か？
C305	横田 祥 (気象研)	アンサンブルに基づく相互共分散行列の特異値分解による平成 30 年 7 月豪雨の解析
C306	堀田 大介 (気象研)	背景誤差共分散のモデル空間直接局所化による非局所・高密度観測データのアンサンブル同化に向けて
C307	石橋 俊之 (気象研)	4次元の背景誤差共分散行列を使った 4D-Var によるアンサンブル生成と決定論的解析 (3)
C308	小田 真祐子 (気象研)	変分法同化法のための 2 スケール局所化手法

D 会場

大気力学

座長：木下 武也（海洋研究開発機構）

D301	檜村 博基（神大院・理）	全球非静力学火星大気大循環モデルの開発と高解像度計算
D302	堀之内 武（北大地球環境）	TEM モデルによる金星大気の超回転形成機構の研究
D303	木下 武也（JAMSTEC）	温位面上の質量重みつき時間平均系の Rossby 波活動とそれに伴う残差流について
D304	板野 稔久（防衛大・地球海洋）	円筒形の渦 sheet における「波の共鳴」と「最適励起」
D305	山崎 一哉（東大院理）	高解像度のゾンデ観測と数値実験による、トランスバースラインの構造の研究
D306	相木 秀則（名大宇地研）	熱帯太平洋の表層季節波動のライフサイクル解析
D307	福田 凱大（東大 AORI）	2 種類のエルニーニョ現象に伴うテレコネクションおよび日本域の地表気温に対する影響

A 会場

熱帯大気・台風 I

座長： 那須野 智江（海洋研究開発機構）

A401	高谷 祐平（気象研）	2018年夏季の活発な台風活動に対する太平洋南北モードの影響
A402	石山 尊浩（東大大気海洋研究所）	2018年台風活動の月別 Potential と PMM 領域と東部北西太平洋の SST が与えた影響
A403	渡来 靖（立正大・地球環境科学）	NICAMによる水惑星理想化実験における MJO, 熱帯低気圧, 亜熱帯高圧帯の関係
A404	中江 寛大（東大 AORI）	北半球夏季季節内振動の北進のメカニズムに関する研究
A405	高須賀 大輔（東大大気海洋研）	MJO の発生・東進過程における混合ロスビー重力波の役割－YMC-Sumatra 2017 期間中の事例解析－
A406	那須野 智江（JAMSTEC）	YMC 期間中の季節内振動事例における水蒸気輸送解析

B 会場

気候システムIV

座長： 松本 健吾（岡山大学大学院自然科学研究科）

B401	谷貝 勇（元気象大）	地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について（その11） ー顕在化した北海道の蝦夷梅雨ー
B402	藤部 文昭（首都大）	市町村ごとのデータから見た熱中症・低温死亡率の分布特性
B403	内山 常雄（予報士会）	国内の2000年以降の気候変動の地域特性
B404	下田 星児（農研機構北農研）	近年の北海道の小麦とばれいしょの収量変動要因となる気象現象
B405	戸田 賢希（AORI）	20世紀における日本周辺のSST長期変化メカニズム
B406	福井 真（東北大院理）	日本域領域再解析システムによる台風強度の再現性の評価
B407	松本 健吾（岡山大・院）	中国～東西日本における梅雨期の日々の降水変動と季節進行に関する気候学的解析（大雨日と無降水日の出現状況にも注目して）

C 会場

気象予報Ⅲ

座長： 山上 晃央（筑波大学計算科学研究センター）

C401	榎本 剛（京大防災研）	2018 年台風第 7 号と西日本豪雨の予報実験
C402	山上 晃央（筑波大 CCS）	夏季の顕著な北極低気圧とその予測可能性
C403	前島 康光（理研計算科学）	平成 30 年 7 月豪雨を対象とした高頻度・高解像度フェーズド アレイ気象レーダーデータ同化実験
C404	牛山 朋來（土研 ICHARM）	平成 30 年 7 月豪雨に伴う岡山県高梁川のアンサンブル洪水予 測実験
C405	深町 知宏（気象大）	地形解析手法を用いたトラフの自動検出
C406	鈴木 健斗（東北大院理）	関東地方に発生する沿岸前線の MSM 予報バイアスに関する 解析
C407	佐藤 均（気象庁数値予報）	気象庁全球モデルにおける系統誤差特性と今後の課題
C408	中川 雅之（気象研）	気象庁全球モデルにおける下層雲の表現の改善（第四報）

D 会場

雲物理

座長：鷹野 敏明（千葉大学 大学院工学研究院）

D401	田尻 拓也（気象研）	内部混合したサブミクロン粒子の吸湿度
D402	齋藤 泉（名工大院工）	室内雲乱流実験を想定した大規模 DNS において得られた雲粒 粒径分布および雲水混合比スペクトル
D403	久芳 奈遠美（AORI）	暖かい雨に対する雲物理スキーム比較実験ーバルク法改良の ための衛星データ活用法の提案ー
D404	山下 晃（大教大）	雪結晶研究の新しい展開
D405	篠田 太郎（名大宇地研）	Ka 帯偏波レーダで観測される KDP 極大領域の時間変化が示 すもの ～KDP プロファイルの統計値からの推定～
D406	鷹野 敏明（千葉大院工）	ミリ波雲レーダ FALCON-I による降雨開始時の雨滴形成と 加速の詳細解析
D407	高橋 暢宏（名大 ISEE）	マルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダ（MP- PAWR）による地上に降水をもたらさない降水雲の解析
D408	吉住 蓉子（名大 ISEE）	アラブ首長国連邦の低地における日周対流雲の発達要因と微 物理構造

B 会場

熱帯大気・台風Ⅱ

座長： 嶋田 宇大（気象研究所）

B451	坪木 和久（名大宇地研）	台風の眼の貫通飛行による中心気圧のドロップゾンデ観測
B452	山田 広幸（琉球大理）	航空機観測で捉えた 2018 年台風第 24 号の内部構造の変化
B453	久保田 尚之（北大院理）	航空機で観測した 2018 年台風 24 号の最盛期の暖気核
B454	金田 幸恵（名大 ISEE）	強い鉛直シア環境下における台風 LAN (2017)の発達過程
B455	川島 正行（北大低温研）	2017 年台風 18 号（TALIM）に伴う放射状巻雲バンドの数値実験
B456	佐藤 陽祐（名大工）	台風内の雷構造に関する数値的考察
B457	河田 裕貴（東大 AORI）	台風の内部コア領域に見られる楕円渦に関する研究

座長： 中澤 哲夫（気象研究所）

B458	伊藤 耕介（琉大理）	「藤原効果」に関わる特異ベクトル
B459	山口 宗彦（気象研）	熱帯低気圧の移動速度は遅くなっているか？
B460	中澤 哲夫（気象研）	強い台風は増えてきているか？ ～Mei & Xie(2016)の追試から～
B461	嶋田 宇大（気象研）	台風の急発達事例は“気候学的に”増加しているか？
B462	嶋田 宇大（気象研）	台風急発達の環境条件と多様性
B463	筆保 弘徳（横浜国大）	台風発生環境場別でみた台風になれなかった熱帯低気圧の環境場

C 会場

観測手法Ⅱ

座長：山本 真之（情報通信研究機構）

C451	山本 真之 (NICT)	次世代ウィンドプロファイラの研究開発
C452	大野 裕一 (NICT)	WINDAS 鉛直速度観測を用いた高層雲の解析(2)
C453	山田 芳則 (気象研)	2018年台風21号に伴う近畿地方の風のドップラーレーダー解析
C454	足立 アホロ (気象研)	パラメトリックスピーカーによる RASS 観測の精度
C455	吉見 和紘 (TISS)	マルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダの開発
C456	吉見 和紘 (TISS)	マルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダを用いた豪雨検知システムの有効性について
C457	佐藤 英一 (気象研)	二重偏波レーダーを用いた曇天・雨天時の火山噴煙の観測について (第2報)

座長：青梨 和正（気象研究所）

C458	藤井 秀幸 (JAXA)	マイクロ波放射計海面水温データのノイズ軽減検討
C459	青梨 和正 (気象研)	次世代のマイクロ波イメージャ降水リトリバルアルゴリズム開発：固体降水の厚みの変動を考慮した散乱アルゴリズム
C460	山地 萌果 (JAXA/EORC)	衛星全球降水マップ GSMaP の誤差幅情報の提供に向けた検証
C461	古澤 文江 (名大宇地研)	衛星観測データを用いた降水プロダクト間の extreme 比較
C462	堀 康郎 (安田電機暖房(株))	衛星放送電波を用いた降雨強度、雨量の測定2
C463	角田 敦 (TOK)	微小雨量の検知を可能にした雨量計の開発

大会第4日 [5月18日(土)]

13:30~17:00 口頭発表

D 会場

専門分科会「GEWEXアジアモンスーン水文気候学研究の新しい挑戦」

座長： 木口 雅司（東京大）

D451	寺尾 徹（香川大教育）	GEWEX アジアモンスーン水文気候学研究の新プロジェクト
D452	加藤 内藏進（岡大・教育・理科）	2018年7月豪雨時における中国地方付近の降水の解析（梅雨降水の東西差と変動に関わる気候学的視点から）
D453	野津 雅人（首都大）	GSMaP サブデイリースケール降水のヴェトナム北部における検証
D454	上野 健一（筑波大）	中部山岳域における衛星降水量の検証
D455	杉本 志織（JAMSTEC）	チベット-ヒマラヤ域を対象とした高解像実験の重要性
D456	高橋 洋（首都大）	アジアモンスーン域での降水日変化における大気陸面相互作用の役割

休憩（10分）

座長： 福島 あずさ（神戸学院大）

D457	横井 覚（JAMSTEC）	北進季節内変動に伴うフィリピン西岸域の降水変動：YMC-Laoag 2018 集中観測
D458	藤波 初木（名大 ISEE）	ヒマラヤ山脈の氷河周辺域における夏季降水量観測と降水量変動
D459	鼎 信次郎（東工大）	PostMAHASRI における水文学の挑戦
D460	尾瀬 智昭（気象研）	CMIP5 モデルの夏季東アジア現在気候再現性と降水量将来変化

総合討論（30分） 鼎 信次郎・寺尾 徹（東工大・香川大）

各講演は15分